回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q 1 3 6 (梅毒)

24歳男性薬物依存症の患者が

平成12年1月入院時 ガラス板法 (-)
TPHA (-) でしたが

今回(平成16年3月20日)

再入院時に ガラス板法 (-) 1倍未満
TPHA (3+) 320倍

となっております。

今迄はガラス板法、TPHA共に陽性といった高齢者の方はいらっしゃいましたが、TPHAのみ陽性といった方は初めてです。またこのように若い方も初めてです。

本人の精神状態がまだ不安定で梅毒の治療歴等も問診して居りません。妻と4ヶ月の女兒の3人家族です。今後、どのように梅毒に対して対処していけば宜しいのでしょうか。

A 1 3 6

このデータから、可能性が2つ考えられます。

ひとつは、この4年間の間に、梅毒に罹患され、すでに治癒したあとの、いわゆる血液痕跡の状態、今ひとつは、現在、梅毒感染のごく初期でまだガラス板法で上昇が認められない状態、です。前者の可能性が高いとは思いますが、後者も否定はできないため、約1ヶ月間隔をあけて(すなわち4月20日頃)、再度、ガラス板法とTPHAの両検査をされるべきでしょう。3月20日と同様の結果であれば前者で治癒後と考え、他への感染の危険もなく治療も要しないこととなります。もし、その時点でガラス板法で抗体価上昇が認められれば、最近の感染と考え、抗菌化学療法が必要です。その場合の治療としては、ペニシリンアレルギーがなければ、アモキシシリン1500mg分3、2~4週間が妥当で、血清抗体価を追跡して、ガラス板法で陰性化または8倍以下の低い価に下がりきって落ち着くことをもって治癒を確認いたします。このときも、TPHAは陰性化しないことがしばしばです。